

泉区泉中二地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 5 月 17 日掲載記事)

(1) 泉中二地区の被災状況と今後の備えについて

泉中二地区は高森、高森東、桂、寺岡、紫山の 5 地区から成り立っており、民生委員・児童委員数は 22 名です。内陸部ということもあって、震災の被害は沿岸部に比べて少なかったのですが、家屋の大規模損壊や半壊の被害がありました。

震災前に要支援者の名簿は完成していましたが、飲料水や食料の備蓄などは具体的に把握していなかったため、発災直後の支援活動は困難を極めました。特に大変だったのは飲料水の供給でした。

これらの経験から、①各自による最低 3 日分の飲料水と食料の備蓄、②自分の身は自分で守る自助の自覚、③近隣の住民による「向う三軒両隣」の安否確認、が必要と考えられます。また、防災訓練には必ず参加することなどを、町内会の班長会議やサロン活動などを利用して周知徹底することが必要と考えています。なお、桂連合町内会と仙山交流チャレンジ・マーケットが協定を結び、災害時には町内会の要請に応じて、生活物資を供給、販売していただくことになりました。

(2) 泉中二地区の民生委員・児童委員、民児協の活動

泉区保健福祉センター主催の被災者支え合いネットワーク事業の地域交流会を平成 25 年 2 月に高森コミュニティ・センターで開催し、泉中二地区民児協はその企画、運営にあたりました。泉中二地区には沿岸部で被災された方が避難されてきているので、その方々を中心に参加のお誘いの声かけをして回り、当日の送迎を行ないました。被災された方々に少しでも楽しんでいただくため、泉中二地区にお住まいのボランティアの方にマジックショーをお願いしました。被災者の方にもマジックに参加していただき、マジックの面白さを堪能していただき、会場は笑顔とともに大きな笑い声で一杯になりました。

その後、食事をしながら懇談しましたが、被災者の震災当日の貴重な体験談を聴き、あらためて震災の怖さと平日頃の防災に対する認識の違いが人生を左右することを切実に感じました。つらい体験をされたにもかかわらず、被災者の明るく前向きな姿に心を打たれ、私たち委員の方が勇気と元気をいただきました。大震災から 2 年が過ぎましたが、委員一同、微力ながら今後も被災者に寄り添って支援していきたいと考えています。



マジックショーの様子



震災当日の体験談